

外国語活動・外国語の指導を 4技能の観点で見直す

第2回 「意味」と「音」を結びつける

粕谷恭子（東京学芸大学）

0. 4技能をなだらかに育てるための言語経験

4技能のとらえ方 (第1回)

「意味」と「音」の一致 (第2回)

大量の音声インプット (第3回)

口慣らし (後練) (第4回)

「音声」と「文字」の一致 (第5回)

第2回 「意味」と「音」を結びつける

1. 主体的な学び

- * 子どもが持っている「何が話されているか」類推する力を活かす
 - ・ 外国語なので、全部わかる日はこない
 - ・ わからない時の頭のめぐらせ方も身につけさせたい
 - ・ 「自分でわかった！」という学びの手ごたえを与えたい
- * 日本語との置き換えは最後の手段
 - ・ 日英 = 一対一対応と思込ませたくない

第2回 「意味」と「音」を結びつける

2. 指導者に必要なこと

* 児童に理解されていること

- ・ 意味が類推しやすい

* 児童を理解していること

- ・ どんな題材に興味・関心があるか知っている強み
- ・ 他教科の学習内容、学校行事に精通している強み

第2回 「意味」と「音」を結びつける

2. 指導者に必要なこと

* 肉声で英語を話すこと

- ・「あなたたちが話せるようになるべき表現はこれです」という気持ちではなく（シャーレ・ホルマリン・食品サンプル）
- ・生きている腹からの英語（野に咲く花・湯気やにおい）

* 後で子どもがアウトプットするべき表現だけでも正確に

- ・すべてを英語で、などと欲張らない

第2回 「意味」と「音」を結びつける

2. 指導者に必要なこと

* 児童がわかっていないということを察知する力

- ・ 素通りしないで対処する
- ・ どこか躓きの要因か、分析・判断する力

* どうしたらわかるか、複数の手段を持っていること

- ・ 例を挙げる、絵を描く、ジェスチャーするなど

第2回 「意味」と「音」を結びつける

3. 授業の場面で

* 言語外情報を有効利用

- ・ 見てわかる = 絵、表情、ジェスチャー、実物、など
- ・ 聞いてわかる = 鳴き声の声まね、歌など
- ・ 英語でややこしく説明しても場合によってはわかりづらい
- ・ 日本語で意味を与える時はさらっと、話にうまく織り交ぜる

第2回 「意味」と「音」を結びつける

3. 授業の場面で

* 提示する際の配慮

- ・ 黒板はすっきりさせる = 不要な情報は消す、はがす
- ・ 全体を見たいときには黒板、単品で見やすいのはスクリーン
- ・ 絵カードのサイズ

第2回 「意味」と「音」を結びつける

3. 授業の場面で

* 聞いてわかるかどうか確認を

- ・ 聞いて黒板に貼ってある絵カードを指さす
- ・ 代表の児童に、先生が言ったカードをはがす手伝いをしてもらう
- ・ 指し加減、手の伸び加減で理解の度合いを把握する

4. 次回予告

この回では、「意味」と「音」を結びつけるステップについてお話ししました。

第3回では、音声インプットを与えるステップについて扱います。